

1. 基礎情報

自治体名	大分県別府市	
部署名	観光戦略部文化国際課 (※令和3年4月より観光・産業部へ変更)	
電話番号	0977-21-1131	
メールアドレス (※は@に変換してください)	int-ma	※ city.beppu.lg.jp
ホームページ	http://www.city.beppu.oita.jp/	



防災運動会の様子

在留外国人数	令和2年12月現在	3,649	人	住民基本台帳人口に占める割合	約3.2	%			
うち、在留資格別上位3種類の人数及び在留資格名	1位 (留学生)	2,211	人	2位 (永住者)	355	人	3位 (専門的・技術的分野)	322	人
うち、国籍別上位3ヶ国の人数及び国籍名	1位 (中国)	755	人	2位 (韓国)	560	人	3位 (ベトナム)	360	人

2. 多文化共生に関する活発な取組や、独自性・先進性のある取組の内容

大分類	生活支援	
小分類	災害時の支援体制の整備	
取組のポイント	災害時における多言語支援及び地域や住民と連携しての活動 (災害時多言語支援センター設立・防災運動会・防災まちあるき等)	
具体的な取組内容	<p>○災害時多言語支援センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年に発生した「熊本地震」における課題や反省、要望を活かし、日本語が十分に理解できないために行政機関等が発信する情報を取得できない、または地震等の災害経験が少ないことが原因で精神的に不安を抱える外国人を支援することを目的に「災害時多言語支援センター」を設立。センターは、行政と登録制の語学ボランティアにより運営され、約15種類の言語にて対応可能。</li> <li>○防災運動会</li> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域と協働の下「防災運動会」を平成25年度より実施。「平素から顔の見える関係づくり」や「防災意識の向上」を目的に、災害時に備えた日本人と外国人の地域交流会として実施。外国人住民も地域の住民の一員であるとの認識の下、大規模災害の際には、支援の受け手ではなく、外国人がもたらす新たな視点や多様性を活かし、「支援する側」として、地域住民と協働で対応ができるような環境や体制を強化。</li> <li>○防災まちあるき</li> <ul style="list-style-type: none"> <li>別府市・立命館アジア太平洋大学・B-biz LINK BIP事業(市が多文化共生事業を委託)が協働して、「防災まちあるき」を実施。地域の避難所や海拔表示、津波避難ビル等を探しながら歩き、災害発生時に備え、確認すべき標識や場所を意識づけることを目的に実施。</li> </ul> </ul> </ul>	
大分類	地域活性化の推進やグローバル化への対応	
小分類	外国人住民との連携・協働による地域活性化の推進・グローバル化への対応	
取組のポイント	外国人留学生地域活動助成金	
具体的な取組内容	<p>○外国人留学生地域活動助成金</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国人留学生と地域住民との多様な交流を支援するため、平成26年度より実施。</li> <li>外国人留学生を主たる(1/2以上)構成員とする市内の団体が、大学の敷地外で市民との交流イベントや教育事業を行う場合、活動経費の3/4、最大20万円までを助成する。</li> <li>学生団体・グループが市民との交流を行いたくとも、民間からのスポンサーや協賛を得ることは難しく、また生活費を切り詰めて費用を捻出するのも留学生には大きな負担となるため、この助成金のようなハードルを下げた多文化交流を後押しする役割を担っている。</li> <li>活動例として、各国出身の留学生団体による文化交流イベントやワークショップ(料理教室など)、イスラム教徒(ムスリム)と市民の大々的な交流会、商店街の空き店舗を活用した美術展、ロータリークラブと留学生が協力して行う語学教室の運営、留学生・海外出身市民が講師となる「国際理解教室」、駅前通り商店街にある飲食店のメニュー多言語化支援、市民と留学生によるミュージカル上演、外部講師を招いての講演会などがあり、様々な交流事業に助成金が活用されている。</li> </ul>	